

第 207 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 4 年 9 月 26 日（月） 13：30～16：00

場 所：浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者：岡田教育長 宇津委員 花田委員 杉野本委員 岡山委員

事務局 森脇部長 草刈課長 松山担当課長 山口課長 永田担当課長

木屋担当課長 鳥居室長 田中課長 濱見室長

書記：日ノ原係長 川村主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊担当部長、猪木迫担当部長、岩崎分室長、細川分室長、上原分室長、石原分室長は、欠席。

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 浜田市教育委員会ボランティア表彰について（資料 1）

(2) 教育委員会自己点検・評価について（資料 2）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

(1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

本日の教育委員会定例会では、教育委員会の自己点検・評価表をご審議いただくことになる。長時間の定例会になると思うが、よろしく願います。

9 月は運動会や体育祭、それから中学校の修学旅行等、大きな学校行事が実施されるため、いつも以上にコロナウイルスの感染状況が気になる時期であった。

2 学期に入って早々に中学校の部活動を 2 週間停止した他は、学校行事は順調に取り組んでいると思う。

これから新人戦も予定されているが、スポーツだけではなく、様々な文化活動も行われる。これからは after コロナというより、with コロナを意識して感染対策にしっかり努めながら、活動についてはできるだけ止めずに実施していくことを考えていかなければならないと思っている。

それではお手元の資料に基づいて、先月の定例会以降の活動について報告をさせていただきたいと思う。

① 8月29日（月）浜田市学校給食審議会（講堂）

浜田市学校給食審議会が開催された。今、食材費等が高騰している。3年に1度、給食費の見直しをするわけだが、今後の学校給食費の改定について、諮問をさせていただいている。

② 9月1日（木）9月議会開会（提案説明、全員協議会）

9月1日に9月議会が開会している。教育委員会の関連では、幼稚園条例の改正、幼児教育センターの設置条例の制定を提案している。

それから宇津教育委員であるが、11月18日で任期満了となる。この9月議会で後任の同意案件についても提案をしている。9月29日が表決であるが、提案をしている方は元浜田高等学校の校長であった倉本一三さんである。

③ 9月2日（金）9月市議会（一般質問）

④ 9月5日（月）9月市議会（一般質問）

⑤ 9月6日（火）9月市議会（一般質問）

⑥ 9月7日（水）9月市議会（一般質問）

9月2日から7日の4日間で一般質問が行われた。今回の一般質問についての資料を付けている。不登校の対応、通学路や校庭の危険木の対応、特別教室のエアコン設置、理数教育の充実、教職員の働き方改革、それから公立幼稚園の将来展望等が問われている。後ほど説明させていただきたいと思う。

⑦ 9月15日（木）浜田市PTA連合会との意見交換会（講堂）

浜田市PTA連合会との意見交換会が2年ぶりに開催された。浜田市の主な教育施策について説明した後に、連合会からの質問事項に対して意見交換を行っている。

資料等も会議が始まる前に委員方にお渡しさせていただいたが、主な内容としては、学区の見直し、休日の中学校の部活動の地域移行、不登校の生徒への支援、学校施設の充実、それから教員不足や働き方改革について等の意見があった。

⑧ 9月19日（月・祝）浜田市災害対策本部会議（台風14号関係）

台風14号に関する災害対策本部会議が開かれた。今回、非常に大型の台風が接近し、黒川の室内プールや三隅中央公園、B&G海洋センターで一部予約が入ってなかったこともあって、休館とさせていただいた。それから教育委員会が所管する

学校や文化スポーツ施設について、大きな被害はなかった。

⑨ 9月21日（水）浜田高校硬式野球部甲子園出場支援金（クラウドファンディング）贈呈式

浜田高校硬式野球部の甲子園出場の支援金をクラウドファンディングでふるさと寄附として募り、2,536千円のご寄附をいただいている。このうち、返礼品の金額を除いた2,026千円を贈呈させていただいた。

⑩ 9月22日（木）「税に関する絵はがきコンクール」浜田地区審査会（中央図書館）

税に関する絵はがきコンクールの浜田地区の審査会が行われた。

それから今週末については天気の関係で、行事が履行できるかわからなかったが、23日には延期をされていた国府小学校の運動会が無事に開催された。

それから24日には、浜田市長杯の親善ペタンク大会が行われ、開会式に参加をさせていただいている。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

各委員

特になし。

2 議題

(1) 浜田市教育委員会ボランティア表彰について（資料1）

山口課長

資料1をご覧ください、裏面に実施要綱を載せている。

浜田市教育委員会ボランティア表彰について、目的の第1条にあるように、子どもの安全確保や防犯に関する優れた活動を行った地域活動団体及び個人に対し、教育委員会が表彰するというもので、平成23年度から実施をしている。

表に戻っていただき、今年度は美川小学校から推薦があり、個人で石津公雄さんを推薦したいということで、本日、お諮りするものである。

活動内容、推薦理由を載せているが、長年、地域の見守り活動以外にも、交通安全指導や防犯教室に積極的に参加され、地域の防犯、交通安全に尽力されたということである。是非、この方を推薦したいと思う。以上である。

岡田教育長

事務局から提案があったように、ボランティア表彰者として今回は1名の方を推薦したいということである。

各委員	ご意見ご質問等あれば願います。
岡田教育長	特になし。
各委員	それでは、美川小学校推薦の石津公雄さんを表彰するというこ とで、承認いただけるということでよろしいか。
岡田教育長	全会一致で承認 ありがとうございます。

(2) 教育委員会自己点検・評価について (資料 2)

岡田教育長	<p>それでは続いて議題の 2 点目、教育委員会自己点検評価についてである。手元の資料になる。</p> <p>ボリュームがかなり大きいので、少しずつページの範囲などを決めながら、ご意見を頂戴したいと思っている。</p> <p>事務局から説明があるか。</p>
日ノ原係長	<p>今回は令和 3 年度の事業について評価していただくところになる。本日ご意見をいただき、ご意見を受けて修正したものをまた後日、委員方に送付をさせていただきます。</p> <p>それでまた委員方に最終的に確認いただき、最終的には議会の総務文教委員会に報告したいと考えている。</p> <p>中身について 1 点変更点がある。</p> <p>令和 3 年度は、平成 27 年度に策定した教育振興計画の計画期間の最終年度であり、個別の評価表の教育委員会の評価欄が一番下にあるが、こちらを「令和 3 年度の評価・6 年間の総括評価」というかたちに変更している。</p> <p>審議の進め方については、先ほど教育長が申したとおり、まず先に個表の評価表をグループごとに区切ってご審議いただき、そのあと冒頭の総評の方に戻ってご審議いただくというかたちで進めていただきたいと思いますので、よろしく願いしたい。</p>
岡田教育長	<p>教育振興計画は新しい計画になっているが、今回の評価については、前回の教育振興計画の評価ということになるので、項目もかなり多い。事前に見ていただいていると思うが、番号を区切りながらご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>項目No.1 からNo.18 まで、ページで言うと 10 ページから 35 ページまでの学校教育の充実、生きる力の育成に関して、何かご意見があるか。</p>
杉野本委員	<p>このNo.4 (学力向上総合対策事業) に限ったことではないが、自己点検ということで、こちら側からの内部評価的なものだと思います。</p>

うが、最後のところが「取り組んで欲しい」となっているが、少し外部評価的な、第三者的な表現に感じた。他にもそういう部分がたくさんあった。

岡田教育長
日ノ原係長
杉野本委員

その辺り事務局はいかがか。

少し違うかたちで修正をさせていただく。

「取り組んでいく必要がある。」とか。「必要がある」はたくさん使われているので、その感じでいいかと思う。

岡田教育長

それでは表現の方法について、すべて見ていただき、気になるところは修正をお願いしたい。

日ノ原係長
岡田教育長
宇津委員

承知した。

その他いかがか。

3年度の評価・6年間の総括のところ、以前も指摘させてもらったが、算数・数学の力が伸びてないという現状について、どうかという話をさせていただいたが、早速そのことについて中ほどで触れられている。

そういう意識を持って取り組むということがとても大事なかなと思うので、これからもひとつよろしくお願いしたい。

岡田教育長
鳥居室長
岡田教育長
岡山委員

今のご指摘に対して事務局から何かあるか。

ありがとうございます。

特に今年度は指定校も増やしたりして力を入れている。

教えていただきたい。理数教育の充実を図ると書いてあるが、数オリンピックが行われていると思う。地元の方が受け皿になり生徒を集めてやっているというのはあるが、あまり市全体で取り組んでいるといったことを聞いたことがない。何かお知らせなり、盛り上がりのようなものがあると、ちょっと算数好きだから取り組んでみようかなというような、何か目標があるといいのかなと思った。

実際に数オリンピックに参加している子どもたちは、一生懸命友達と考えながら取り組んでいたりするので、楽しく取り組める仕組みがあるといいのかなと思った。

鳥居室長

数オリンピックは県の教育委員会が募集をしているものである。教育委員会としては県の教育委員会から送られてきた通知を各学校へお知らせし、参加をお願いする。今のところはそういうかたちでしかしていない。ここ最近は参加数が少ない。

コロナの関係で、今までは学校や合同庁舎を会場にしてやっていたが、家でも、友達と一緒にペアで問題を解くとか、そういう

ことがなくなってきた、魅力がなくなってきたということもあるかと思う。県の教育委員会にもそういったことを伝えながら、考えて行けたらと思う。

科学の甲子園というものもあるが、これも同様に参加者が少ない。周知の方法を考えていきたい。

岡山委員

数オリンピックに関しては結構力を入れている保護者がおられ、その方は、やはり家で受けるとモチベーションが下がるのではないかと自分で会場を確保され、そこに集まってやってもいいという様な取組をされている。やり方一つでいろいろなことができるのではないかと思う。子どもたちはどうやって取り組んだらいいのか分からないみたいなどころもあるが、保護者がこういうものだということをご丁寧にされているので参加者が割とあるというところもあると思う。ぜひ保護者の応援も得ながら、そのあたりのところもできたらいいなというふうに思うので、ぜひこれからも、周知をお願いしたい。

岡田教育長

No.6 の外国語指導助手の招致について、ALT の派遣事業者が変わった。そのことで事務局から説明があるか。

山口課長

今年度から新しい事業者に変更となっているので、昨年度までは同じ事業者が行っている。

宇津委員

No.7（土曜学習支援事業）の内容の部分で、地域学習支援事業（勉強の場所づくり）について、「支援や配慮が必要な小学生、中学生」とあるが、これは何を意味しているのか。そのようなことを謳う必要があるのか。

広く小学生、中学生、高校生が対象であると思うが、支援や配慮が必要な、そういう子どもだけを対象にしているとイメージを持ってしまった。

永田担当課長

確かに委員が言われるように、特にそういった方に限定することではなく、広くどなたでも、誰でも対象にしているので、文言を修正する。

岡田教育長

内容の修正はできるのか。

日ノ原係長

ここについては令和元年度に変えている。もともとの教育振興計画から少し変わっているので、修正はできる。

岡田教育長

この土曜学習支援事業にかかわらず、家庭の経済的な事情で要望や準要保護を受けている方にだけ、青少年サポートセンターから夏休み事業などの希望者を募ったりというような事業は、この土曜学習事業とは別にやっていたりする。

永田担当課長
岡田教育長

日ノ原係長
岡田教育長
宇津委員
日ノ原係長
岡山委員

岡田教育長
山口課長

この土曜学習支援事業にそういったことを配慮してやったのか、もしくはまったくそういうことはなかったが、ただ内容を記載する時にこういう書き方をしてしまったのかというところは分からないが、基本は誰でも入れるということではいいか。

そのとおりである。

これが令和元年度からずっと載っている内容で、今回ご指摘いただいたが、これは変えられるということか。

そうである。

承知した。

これはNo.41（土曜学習支援事業）にも同じ文言が出てくる。

承知した。

No.8の学校司書等配置事業だが、近年、給与体系等が変わりつつあるので、やりたいことが、もっと時間があればこんなことができるという方が、どうしても時間の制限の関係でできないということを知る。

確かに費用面のこともそうだが、何かどこを狙ってどうかというところが、もっとはっきりしている方が、今後いいのではないかと思っている。

正直なところ、この給料ではやっていけないという話を聞くことがある。やりたい気持ちはあるが、給料も下がってしまってできないということで、ベテランの方が抜けてしまうみたいなことも起こっているの、その辺りの聞き取りのところも何か工夫してやっていただけるといいかなと思う。何か内容が後退するのはあまり面白くないと思う。率直な意見を聞ける場があったらいいなと思う。

給与体系が変わったのか。

今は会計年度任用職員という身分で、時間給のパートでお手伝いしている。

この制度が入ったことによって、期末手当が当然支給対象になる。そうすると、今までこの期末手当がなかった部分、平日に勤務可能な時間がある程度確保できて、学校の図書館で午後昼過ぎまでいらっしゃることができ、貸し借りの子どもたちと接する時間を十分取れたということが背景にある。

会計年度任用職員になって、1日当たりの勤務時間が1時間ないし2時間減る方も実際おられるので、従事時間が足りないという意見は実際聞いている。

これは県の交付金の事業を使っているので、そういった事業費の見直しという部分も、一部には、1人当たりの時間数という部分は制限がかかったということは正直ある。

岡山委員が言われるように、浜田市は学校図書館司書がしっかり機能していると思っている。

ただ一方で、働き方の中で当然社会保険の扶養に入るという制限も、本人の働き方の中の一つの理由があり、あまり働く時間数が増えれば逆に扶養から外れてしまうという方もおられる。しっかり、きちっともつと時間を欲しいという方もおられる。

そういった現場の声はしっかりと聞き、少しでも子どもが図書館に行きやすい環境を作っていきたいと思う。

実際のところ、昼から司書のいない図書館があるのが現状である。その部分はどうやっていこうかというところが、正直なところである。本人の働き方と市の予算の両方の課題もあるが、声を聞きながらやっていきたいと思っている。

岡田教育長

予算を有効に活用するというところで、岡山委員から指摘があったように、それぞれの思いを聞く機会を持ってほしい。

花田委員

No.9(学校支援員配置事業)の令和3年度の評価のところで、2年ぶりに学校支援員の研修が開催できたとあるが、一人の手として支援員がいてくださることは助かるが、それこそ支援員の理解が追いついてない子どもに対応することが多いと思う。特別支援の子どもとか、まだはつきり分らないが、その傾向かなみたいなのが分かっている子どもにこそ付いていただけているのではないかと思う。

それが、支援員として付いていただいたことがマイナスになって、現場はもっと大変なことになっている場面もたくさんあると聞く。それを思うと、研修は本当に必須だと思っており、この2年ぶりというところが、その間のことだったのかもしれないが、やはり結構充実した研修をやっていただかないと、実際学校現場が助かっていないということも起こっているので、ぜひその予算を付けられるのであれば、効果的なやり方を使ってやっていかないといけないと思う。

山口課長

オンラインだったとしても、何かやり方がなかったのかなと思うので、中身についても工夫をしてやってもらいたいと思う。

きちんと研修を行いたいと思う。

おっしゃるとおり現場の経験が長い先生方から、まだ1年目2

年目の経験だという先生方もいらっしゃるので、そういったプログラムを、浜田養護の先生方にも協力していただいているので、続けてやっていきたい。

宇津委員

No.10（小中学校一斉学力調査等実施事業）について、間違いではないかと思うが、3年度の実績の2番目、中学校1年生は国語が-3.2ポイント、次に数学と英語があるが、英語の数字が違うものが2つ並んでいる。どう理解したらいいか。

鳥居室長

申し訳ない、前年度の数値を消し忘れていた。確認して修正する。

宇津委員

No.12（特色ある学校づくりの推進）について、この制度が令和3年度をもって廃止となった。おそらく現場からは是非とも継続して欲しいという声が上がっていると思うが、今年度はこれをどんなかたちで取り組んでいるのか。

山口課長

3年度で一旦は終わっている。

今後どうなるのかというところだと思うが、今年の3月議会でもこの廃止にあたっては議員方からいろいろご意見をいただいている。

やはり、校長の裁量権があり自由度の高い予算というのは、非常に現場としても使い勝手が良く、学習効果もあると思っているので、教育委員会としては、財源を見ながら何とかできるようにしたいとは思っている。

ただ、類似の事業がどうしてもあるので、その辺の無駄がないように、効果的なものをやるように考えているが、来年度からこうしますということとは言えない状況にあるので、その点ご理解いただきたい。

宇津委員

No.16（児童生徒の安全で安心な環境の確保）の総括の最後の2行に、「安全性に問題があると言われたものについては撤去した。しかしそれを改めてまた設置するには費用がかかるので課題がある」と書かれている。確かに課題があるが、やはり望むのは、子どもたちにとってみれば設置して欲しいわけである。計画的に進める必要があるというふうにされた方がいいのではないか。

ただ課題があるというだけで置くのではなく、教育委員会の姿勢として、計画的に進めていくといった姿勢を示した方がいいのではないかという気がした。

草刈課長

その辺も必要に応じて、予算とも計画的に、必要なものは早急にかたちで、能動的な表現に修正する。

宇津委員	No.17（幼児教育の充実）について、実績の 3、「市内小中学校の取り扱いに順じ」とあるが、「準じ」ではないか。
草刈課長	修正する。
花田委員	先ほど杉野本委員が言われたように、「～べきである」とあり、他人事のようなので直していただきたい。
草刈課長	承知した。
岡田教育長	続いて項目No.19 からNo.24 までの学校教育の充実、一人ひとりを大切にする教育の推進に関して、何かご意見があるか。
花田委員	No.19（児童生徒健全育成事業）の総括について、不登校児童に対して今やっていることは書いてあるが、今後こうするということが書いていない。状況把握しようとしているというところだけで、今後どうしていくのかが分からない。
山口課長	ご指摘のことはごもつともで、不登校の子どもをどうするかというところの表現だと思う。実際、全く何もしていないわけではない。非常に難しい問題だが、ケース会をしたり、学校の先生も連絡をきちんとされたりしながら今に至っており、なかなか打開策はないが、その部分は持ち帰って内部で相談させていただきたい。情報収集以外の取組を見直しさせていただきたい。
岡田教育長	やはり把握だけでなく、具体的にやっていることが見えないということなので、見える化をして、それで3年度の実績に対してどう評価するか。 No.20（問題行動、いじめ等の指導相談）の総括についても、「期待する」といった表現も同じである。たぶんこれは全体を通してだが、事務局がこういう評価でどうかというものを出して、委員方がそれに対してどうかということで、このようになっているが、委員方の評価になるので他人事にならないようにしたいと思う。
花田委員	No.21（親学プログラムの実施）について、この事業ができたときには、私もやる側だったのでとても感じるが、当初のようにどんどんやっていって、家庭教育を支援するところを期待したが、今実施回数が少なくなっているところの、おそらくこの評価のところ「新型コロナウイルス感染拡大の影響がある」と書いてあるが、今これを理由にすれば何でもある。これが衰退している、少なくなっているというのはそれだけが理由ではないと思うので、もう少し検討、分析が必要ではないかと思う。
永田担当課長	確かに新型コロナウイルス感染症の影響はあり、実際に申し込みは

あるが、実施時期に感染者の人数が増えていき、申し訳ないが中止します、というところもある。

しかし、委員ご指摘のように、実際の数自体もなかなか高まりがないというか、新規で増えていかない。毎年やっている保育園や幼稚園、小学校しかないという現状もあり、委員が言われるように、新規に小学校や保育園、幼稚園で取り組むということがない。そういったところを少し検討、研究してPRしたいと思う。

岡田教育長

分析した結果についてはもう少し詳しく願います。

この案に対して今日指摘を受けたことについては、ここでこうすると言えないことについてもあるので、また次回お示しする。

岡山委員

No.22（特別支援教育推進事業）の総括も最後が「支援に努めてもらいたい」となっているので、修正をお願いしたい。

花田委員

巡回訪問をさせていただけるようになってから、確かにとても効果があり、もっと早く親も気持ちをシフトできるようになり、とてもいい方向にあると思うが、実際いろいろな不具合があちこちで起こっているという現場の話をよく聞くようになった。

相談支援チームに上がってくる人数がすごく増えていて、それこそ特別支援学級に繋げるだけではなく、薬を飲みながら通常学級で様子を見るということがあがるが、早く支援に繋がった方が良い人は、その支援チームにかけたりする中で、数が多すぎるのでそういうのはもう上げてこないでという様な声が、相談支援チームから各学校へあるということを知っている。それはどうなのかなと思う。実際本当に回らないくらい大変な数になっていて、そういうことがあるのであれば、逆に今度は支援チームの人を増やすとか、先生がしんどくないようなかたちで、根本的に考えていかないといけないのではないかなと思う。そうやって埋もれてしまう、家庭の中で、家族だけでは大変になって、いろいろな方向に、施設が必要になったりとかする様なことが起こったら、どうするのか。本当はそのために始めているはずである。

もしそのところが本当なのであれば、解決するところは別にあると思うので、考えていただきたい。

岡田教育長

実際に数が増えているというのは、実績上で分かる。今その体制のままでいいのかという問題提起だったと思うが、これもまた持ち帰らせてほしい。

山口課長

今教育委員会の方も、まずは来年度に向けた就学支援委員会、これで動いている部分が多いが、これとは別に相談支援チームが

あり、41 ページにある様に、年少からずっと見ていくが、最終的に誰が主体性を持ってこの子たちをどう支援していくかというところの主体が非常に不明確な部分があり、その部分が最終的に就学時に、小学校上がる段階だともう学校だよというふうになる。そこのトータルの支援というところをきちんと明確にしないといけないかなと思っている。

特に幼児教育支援センターも今後できるので、そこでそういった療育か学習か分からないが、そういった支援を行いながら就学に向けてという部分は学校教育課の中では検討しないといけないという認識は持っている。この表現自体は直しようがないというところを理解していただけたらと思う。

岡田教育長

確かにこれは大きな問題である。評価という次のステップをどうするか。ただ、問題提起をこの中でしておくということはあると思う。その体制まではちょっと考えないといけない。

杉野本委員

特別支援関係について、記憶が曖昧だが、国連から日本に対して、人権問題の一つとして特別支援学級があることがどうなのかということが指摘されているということがある。今ここでどうこうということではないが、そうなった場合にはインクルーシブ教育の部分で、いわゆる専門家だけがどんどん増えていくのではなく、あらゆる教員、すべての教員が、そういう特別支援についても理解を深めていき、子どもたちが通常学級でも自然に学習ができる、落ち着いて学習ができるという部分をどんどん作っていきける様なことに、いつどうなるか分からないが、そういったこともやはり見通していく必要があるのかなと思う。

たぶん大学でもそういった特別支援についても、教員免許を取る上で単位が入ってくるのではないかなと思う。そういうところも視野に入れながら、ここでどうこう言うわけではないが、教員研修としてそういった部分は視野に入れていく必要があるのかなという気がしている。ここにどこまで書けるかは分からないが。

岡田教育長

後期の計画でも特別支援教育推進事業で挙げていないか。

山口課長

ない。

岡田教育長

インクルーシブという言葉は後期に入っていたか。

山口課長

特に小中学校の特別支援教育については項目を作ってやっていない。幼児教育でインクルーシブ教育を使っていると思う。

岡田教育長

確かにご指摘の様に、特別支援学級とか、それこそ特別視しているのはどうなのかという指摘があるところである。そうは言い

	ながら、大空小学校のようにインクルーシブ教育ができるかという課題もかなり高いと思う。またどこかで勉強会をした方が良くいかもしれない。
	続いて項目No.25 からNo.28 までの学校教育の充実、食育と体づくりの推進に関して、何かご意見があるか。
杉野本委員	No.25（食育推進事業）の目標の下の枠のところ、「3 年度の実績」が抜けている。
花田委員	No.26（学校給食での地産地消の推進）の「きゃべつ」はひらがなか。
草刈課長	美味しまね認証産品が片仮名かひらがなか確認する。
岡田教育長	続いてNo.29 からNo.33 までの家庭教育支援の推進、家庭教育支援の充実に関して、何かご意見があるか。
花田委員	No.30（家庭教育支援チームの結成）の家庭教育支援チームは浜田市全体のチームを組織する予定か。
永田担当課長	目指すところはそこだが、今まだその段階に至っていないところである。
岡山委員	No.33（PTA 活動との連携強化）のところで、今年の市P 連の研修大会について、従来どおりの講演みたいなかたちではなく、本当に有志で集まって、研修で H00P をやろうと改正をされたが、今までのように人数を動員してやるのではなく、本当に気持ちのある方が集まって H00P をやれたということがすごくよかったと思っている。お金がかからないことで、本当に実のあるという活動になったのではないかと思う。今後もこういうかたちでやりたいと言われていたので、ぜひ H00P を宣伝する場としても使ってもらえたらというふうに思う。これいいから自分のところのPTA に持ち帰ってやろうというようなことにも繋がるのではないかと思う。
永田担当課長	ありがとうございます。今回市P 連の方から提案いただき、こういった格好で実施した。先ほども言われた PR、周知に繋がる活動なので、そういったところを含めて、他の市P 連が主催されるような事業でも利用していただけるよう周知を進めていきたいと思う。
岡田教育長	続いてNo.34 からNo.36 までの家庭教育支援の推進、青少年の健全育成に関して、何かご意見があるか。
各委員	特になし。
岡田教育長	続いてNo.37 からNo.43 までの社会教育の推進、ふるさと郷育の

岡山委員	<p>推進に関して、何かご意見があるか。</p> <p>いつもこのふるさと郷育の取組は素晴らしいと思って見ているが、子どもたちの方がよっぽど親世代よりも地域のことを知っていると思ったりする。何か子どもたちがやったことを大人に発表する場があると、子どもたちももっと分かりやすくするにはどうしたらいいかということを考える。学習発表会があるじゃないかと思われるかもしれないが、なかなか保護者以外の方がそういった会に出るのは難しいと思うので。</p> <p>それと、各地域でやっていることが素晴らしいので、例えば成果物ができたら他の学校にも配ってみるとか、そういうことをすると浜田市全体のことがよく分かっていいのではないかと思う。</p> <p>ぜひその学校の取組だけにとどまるのではなく、学び合いに繋がるようなかたちが取れるといいと思う。</p>
岡田教育長	<p>今それぞれの取組を共有する場というのは、大体資料集を作って、皆さんに見てもらうことはやっている。あれはまちづくりセンターの活動としてやっているものであって、子どもたちの状況報告ではないか。</p>
山口課長	<p>今は海洋教育や自然体験、県の一人年間 35 時間実施するふるさと郷育については個別に冊子を作って学校に配っているのと、あと市のホームページにも両方 PDF で見られるようにしているので、ある程度、一部だが各学校の取組は見られるようしている。</p>
永田担当課長	<p>まちづくりセンターも、ふるさと郷育という部分ではないが、まちづくりセンターの活動報告書、事例集を毎年作っている。昨年度になるが、フォーラムというかたちで、それぞれのセンターの活動についてフォーラムに合わせて作ったものを、そのうちの一部の団体に発表してもらおうということを実施したが、今年度も行う予定なので、定期的にそういった場を設けようと思う。できた資料はホームページで公開する。あとはセンターの方に配っているので、設置をしたら閲覧は可能である。</p>
岡山委員	<p>案外学校図書館を使うと、子どもたちの目に触れる機会も増えるかもしれないので、学校図書館に送っていいと思う。なかなか子どもたちが自分でホームページを見ることがないと思うので、まちづくりセンターにも子どもたちが足繁く通うということはあるかなと思う。</p> <p>そういうものを目に触れさせる場としてはちょうどいいかなと思う。活用されるといいかなと思う。</p>

岡田教育長 データがあるので、それを見てもらう機会をどう増やすかという
ことを考えていきたいと思う。

岡山委員 確実に地域が好きだという子が増えているのではないかと思
う。

岡田教育長 国語が好き、算数が好きとかはあると思うが、ふるさと郷育の
浸透具合は本当に難しい。

花田委員 6年経ったので、そろそろ出て行っている子が、これが始まっ
たくらいかなと思う。その辺りにアンケートしたらどうかと思
う。ふるさとに対しての意識とか、将来帰ろうと思うかとか。

岡田教育長 総合振興計画を作るときに、今の高校生や中学生に浜田市が好
きかとか、そういう指標はある。だからそこが、数値がどう変わ
ったかというところは見られるが、結局ずっとふるさと郷育を島
根県が進めている一番の理由は、本当にふるさとのことを好きに
なってもらって、出ていくケースが多いかもしれないが、思い続
けて欲しい、帰ってきてほしい、帰れないまでも何か貢献したい
という気持ちを持って欲しい。そこが難しい。出て行って、どう
意識が変わったか。そこを県がどう評価をしているのか。

一番力を入れている事業なので、その検証方法をどうしたらいい
のかという、悩ましいけどやらないといけないのかなとは思
う。

花田委員 効果があると思いたい。

岡山委員 確実に地元が好きだという子どもは、何となく体感として増え
ている気がする。全くやってなかったときとは、比べ物にならない。

岡田教育長 悩ましいが、どうやっておさえるか検討していく。
続いて項目No.44 からNo.47 までの社会教育の推進、まちづくり
センターにおける人材育成と拠点整備に関して、何かご意見があ
るか。

岡山委員 まちづくりセンターに移行したが、やはり社会教育の拠点はま
ちづくりセンターだというふうに思っている。学校という枠組み
から外れた人たちが社会教育を受ける場としてすごく重要だと思
うので、まちづくりセンターの職員というのはすごく大きなも
のになっているということを、本当に研修を通して、もうずっと、
社会は変わっていくものなので、そこをずっとやっていただきたい
と思う。ベテランの方になるほど、自分は研修を受けたから、
研修を受けなくてもいいという方がいらっしゃるということ

聞くので、もう本当に研修をマストとして聞いていただくくらいの勢いでやって欲しいなというふうに思う。やはり各まちづくりセンターで行っていることを見える化することはすごく大事だと思う。

どうしても、今までの公民館という枠組み、やっていた枠組みから超える、なかなかイメージを変えられないところはあるかと思うが、もう本当に、職員の皆様にも自負をもっていただいて、学校を卒業した後の方の教育は自分たちが担っているくらいの勢いで、仕事をしていただきたいと思う。

永田担当課長

なかなか難しい、大きな課題をいただいたように思う。

研修については定期的に、毎月1回開催するようにしている。長年勤めておられる方から新採の方までいろいろおられるので、ところどころは新採の方が対象とか、誰でも受講可能というような研修もしている。皆さんに社会教育とはというところを、しっかり考えてもらうような話をしたいと思う。

あと、毎年総合振興計画に挙げているが、一応計画で5人ずつ、各地域1人ずつ社会教育士の称号を取得してもらうようにやっている状況で、少しずつ前に進んでいきたいと思っている。

岡田教育長

まちづくりセンター自体が社会教育施設から外れて、市長部局の方に位置付けられたので、これまでできなかった取組ができるようになってきていると思う。例えば極端に言うと、そこで町おこしのために営利な何らかの活動をしよう、そういう新しい社会教育施設としてのしがらみが外れたからできたということもある。

結局、今までももちろん社会教育施設としての在り様というのは、いいものは続けてきたと思うが、プラスアルファでできるものができてきたので、自由度が増している。

その中で何か新しい取組とか、繋がっていくといいと思う。それを共有することで、こんなこともできたのかということが広がっていくといい。まだ移って間がないので、たぶん今までの踏襲的なもの、あるいはその強化ということ、それから、全部センターの職員が請負みたいに行っていることはあると思う。そうではなくて、そういう思いを多くの人に持ってもらい、実際に行動しようという人を増やしていくことが一番の目的だから、何でもかんでもセンターに受けろとなってしまうのはあまり本意ではないと思う。

永田担当課長

そういった地域の方も逆に言うが増えているというか、まちづ

くりの拠点になったのだろうということで、いろいろな事務局をと
とか、それは違うという話を地域の方にもお話をさせてもら
うが、やはりそういうふうにお勘違いされておられる方もいら
っしゃる。センターはあくまでもお手伝いをするところであるとい
うところの話をさせてもらっている。

センターになったからということでもないが、黒沢まちづくり
センターが、公民館の時代に配食サービスということで弁当を作
って高齢者の方に配るといようなことをされていて、プラスア
ルファで、現在は支所の職員も使用していると思うが、週に何日
か、事前注文になるがお弁当を作って配達する、そういった格好
で地域の方がボランティア等でお出されて、地域の食材を使っ
て弁当を作って売っているといような事例もある。そういった
ところを少し、市内のセンターにも広げていきたいと思う。セン
ター化になって、今までは展示販売というものができなかった
が、そういうことで利用されるケースが増えてきている。

岡田教育長

3年度の実績なので、その実績の中で、見え始めたものを盛り
込めるかどうか。

永田担当課長

はい。

岡田教育長

続いて、項目No.48 からNo.54 までの社会教育の推進、図書館サ
ービスの充実に関して、何かご意見があるか。

岡山委員

さっきの話にも通じるところがあるが、図書館はやはり中にい
る司書の方、中にいる人の力量がすごく大事だと思う。例えば訪
ねた職員の方があまり詳しくなく、その資料はありませんと言わ
れるみたいな差ができてはいけないと思うので、資格の有無にか
かわらず、均一のサービスができることがすごく大事だと思う。
改めて図書館というのはどういう場所なのかという研修もして
いただきたいと思う。場所があるからそれでいいということには
絶対なって欲しくないなと思う。

使い方のところも、いまだに他の図書館から取り寄せができる
ということも分からない方がおられるので、住民の方にも、使い
方を逐一教えてあげて欲しいなというふうに思う。

あと、図書館はどうしても抱え込んでいるというか、あまり外
との連携をしているように見えない。私たちは図書館のやってい
ることだからといって、外と繋がっているイメージがあまりない
ので、さっきのまちづくりセンターの話にも通じるが、外と繋が
って、もっと町全体で本に親しむみたいな、まちが担っていくの

岡田教育長

が一番いいのではないかと思う。

ぜひ社会教育施設としての気持ちも忘れないでほしいと思う。

どこか書きぶりでここにこういったことを追加したらということがあるか。

岡山委員

No.49（レファレンスサービスの充実）の内容のところに、レファレンスサービスについていかに対応できるかということが書いてあると思うが、やはり職員の方の力量によると思う。あと資格保持者が少ないと昔から指摘されていると思うので、その辺りのところもお願いしたいと思う。

草刈課長

図書館司書の資格保持者として、中央の会計年度任用職員で3人、三隅、旭、金城でも1人、それから職員で1人いる。

資格の有無について先ほど岡山委員が言われたように、資格を持っていけば詳しいかと言われれば、そうではない。資格が無くても、当然経験が長い方もおられる。そういう方や、レファレンスの部分の確認は、研修を重ねたり、県から来てもらったり、それから職員のレベルを上げるという部分がある。

それから、他の図書館から書籍を取り寄せる、レファレンスで探した結果、浜田市内の館にはないが、県立図書館にあるからそこから取り寄せるというようなことについても、定例のスキームがあるので、受付で問い合わせただけであれば対応はできる。受け取りは中央ではないところの方が近いということもあるので、そういうようなかたちでの対応をとすることは、館長中心に定期的な会議のところでお話をさせていただいているが、まだまだというようなことかもしれない。そのようなところは施設でもまたさらにやっていきたいと思っている。

レファレンスの回数についても、島根県内の図書館のカウント方法だと、2年度は浜田全体で3,000件ぐらいだったのが、3年度は3,600件くらいに増えている。それは新型コロナウイルスの関係で、館の開館日も増えたということもあろうかと思うが、地道にやっていた研修の成果もあるのではなかろうかと思う。議会等でも資格を持った職員が少ないという指摘もあるが、ただ、言われるのは正規職員で資格を持っている人が少ないということなので、正規職員以外で資格を持っている職員もいて、そうではない部分で全体的な底上げをしているというところを説明している。

職員にも自信と誇りを持ってもらい、いろいろなことを言われ

る方がおられるが、そういうことではなく、実際に数字として上がってきていることを見て判断できるようにと。これは管理側の問題というところもあるが、そういう部分が、議員の方とか、他の言われる方に対して、十分理解が浸透してないというところがある。職場環境とか、そういうような研修とか、図書館職員としての仕事に誇りを持てるようなかたちで、それが結局安定的な技術の継承、スキルアップに繋がると思っている。そういうところも心配りをしながらやっていきたい。その事業を持っている私が十分ではないので、なかなかその辺のところ浸透を外部にしてないが、館長係長ともども頑張るので、よろしく願いたい。

岡田教育長

岡山委員からは研修もしっかり書き込んでいるし、しっかりやっているが、社会教育施設として外との繋がりをどうしていくか、まち全体で図書館活動をどうするかというところ、研修を含めて。

草刈課長

今子ども読書の計画を作っている中でも、横の連携が目に見えにくいというようなご指摘もいろいろいただいているので、より一層そういうようなところ、まちづくりセンターであるとか、そういうような各地域の団体とかを巻き込みながら、来年10周年というようなこともあるので、そういうところの力を借りながらやっていけたらと思っている。

岡田教育長

この自己点検・評価表の中にそういった書き込みがあるかないかは別にして、今言うように、子ども読書推進計画や開館10周年を迎えるにあたって、いろいろなことを考えているので、そこでも改めてご意見を頂戴したい。

岡山委員

本当に県の中でも蔵書冊数とか設備の面でもすごく最新鋭の図書館なので、浜田市における財産だと思っている。

草刈課長

個人の貸出件数もそんな低いわけでもなく、高い方だが、なかなか評価が追いついていない。

花田委員

事業所として図書館をすごく使わせてもらうが、5年前と比べたら、5年前は行ったら辛い思いをして帰る図書館であった。

人権意識も、すごい視線を職員から受けるような、本当に辛いところで、こんなに行きたくない図書館はないと思っていた。今は本当にすごく、子どもであれすごく丁寧に接していただき、敬語で、きちんと、その対応もすごくありがたく、私たちの子どもとしても、すごくモデルになるような大人の一人としてやってくださっている。

	<p>子どもたちも行きたがるし、私たちも安心して本を探せて、相談ができて、突飛なことをすごく子どもたちは言うが、それに対してでもすごく本気で探してくださる。とてもありがたい。その思いを汲んで、本当にこの子が欲しいものをどこからか探してきてやろうということがありがたいなという思いを今、言わせていただきたいと思います。</p>
草刈課長	<p>ありがとうございます。受付の人も笑顔で対応という様なこと、挨拶とか、朝のミーティングとかで今やっているので、大変職員が喜ぶと思う。ありがとうございます。職員に伝えさせていただく。</p>
岡田教育長	<p>続いて項目No.55 からNo.57 までの生涯スポーツの振興、スポーツ・レクリエーション活動の推進に関して、何かご意見があるか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
岡田教育長	<p>続いて項目No.58、No.59 の生涯スポーツの振興、スポーツ精神の高揚と競技力の向上に関して、何かご意見があるか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
岡田教育長	<p>続いて項目No.60 からNo.62 までの生涯スポーツの振興、スポーツ・レクリエーション環境の整備に関して、何かご意見があるか。</p>
花田委員	<p>子どものスポーツ少年団についてこの中にあるか。</p>
田中課長	<p>直接は市の組織ではないので、個表の中にスポーツ少年団だけでは出てこない。体育協会の中にスポーツ少年団についても入ってくるので、その中で少し触れている。</p>
岡田教育長	<p>学校開放事業とは直接は違うか。</p>
田中課長	<p>学校開放事業は施設の利用の話なので、使われるケースがあればというところ。</p>
花田委員	<p>中学校の部活動の地域移行に関わることで、学校側の不安としては、学校の部活であれば教育的配慮もあつたらうが、規律とか、態度とか。そういったところも、それができていて、やっとな一流の選手だと思うが、スポーツ少年団の指導者によっては、そうでないようなところもあるようなことも見受けられるので、その辺りの人たちへの研修とか、そういうことはどこが担って、行政として、少し強制力ではないが、子どもを預かってもらう場所なので、そういうところが、どこかからできないのかと常々思っている。</p>
岡田教育長	<p>スポーツ少年団は体育協会の構成メンバーとして入っている。中学校の部活動の移行については、体育協会の中で受け皿の整</p>

備ができないだろうかということで、これから緊急で始めていこうとしている。

一方で部活動は、学校教育の義務ではないが、指導要領の中には関連性が定めてあるということで、生徒指導面でも大変重要な活動である。

だからそれが完全に社会体育に移行していったときに、生徒指導の面でどうなのかという不安は学校も常に抱えているので、移行時のいろいろな協議の段階で、そのあたりの担保のところについては、しっかり話をしていく必要が出てくるかなと思っている。

この点検表の中で、少年団に対することが書かれていない。しいて言うと、体育協会の構成メンバーというぐらい。

今後段階的に地域へ移行するまでの間で、4年度、5年度に考えていくことになるかなと思っている。

田中課長

スポーツ少年団自体は、実は先ほど説明があった体育協会にも加盟しているが、そもそも少年団は県のスポーツ少年団の傘下であり、各少年団のチームも入っている。

またさらにその上の、日本全体の、全国の組織のスポーツ少年団の2つの繋がりがある。その中で、資格指導者についても、近年資格研修が求められる様になっており、当然今おっしゃられた様な、指導方法など、昔からの指導などで問題があったりとかいうようなケースが漏れ聞こえたり、以前はしていたが、やはりもうそういった時代ではないので、新しい教育が、そういう研修などでされていくものだというふうに思っている。

直接そういった、日本全体での組織の中でのスポーツ少年団ということで、直接市の組織ではないので、教育委員会の自己点検には出てこないが、先ほどおっしゃられたように、今後さらに関わりが深くなっていくかと思うので、我々としてもそういったところは注視していきたいと考えている。

岡田教育長

続いて項目No.63 からNo.67 までの歴史・文化の伝承と創造、芸術・文化の振興に関して、何かご意見があるか。

杉野本委員

No.63（石中央文化ホールの管理運営）の3年度の実績で、1の(1)鑑賞事業のところに「出前上映会」とあり、下の評価のところの下から4行目に、「令和2年度以降実施されている出張映画上映会」とあるが、出前と出張は同じことか。同じであれば同じ表記の方が良いのではないか。

田中課長 岡田教育長	同様のものである。内容を確認して揃えさせていただく。 続いて項目No.68 の歴史・文化の伝承と創造、伝統文化の保存と継承に関して、何かご意見があるか。
各委員 岡田教育長	特になし。 続いて項目No.69 からNo.73 までの歴史・文化の伝承と創造、文化財の調査・保存と活用に関して、何かご意見があるか。
各委員 岡田教育長	特になし。 続いて項目No.74、No.75 の歴史・文化の伝承と創造、地域文化の交流拠点づくりに関して、何かご意見があるか。
岡山委員	No.75（浜田城周辺整備事業）の総括について、先ほど花田委員も言われたが、「入館者数については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり目標を大幅に下回っている」とあるが、分析をしなければと思う。 単に、本当にコロナの影響なのか。なぜ大幅に下回ったのかということ、コロナだけではなく、分析をして欲しい。
田中課長	この浜田城資料館は令和元年 10 月の、開府 400 年を迎えたときに合わせてオープンした施設である。まだ年数が短いということで、なかなか標準的な人数がまだ掴みきれていないところである。 令和元年 10 月からということで、最初は開館当初、どの施設もだが、最初はたくさん来られる。その後、じきにコロナの時代に入り、全体も収まってきた。それがさらに浜田市内の感染も増えてきたということで、なかなか伸びていないので、まだ分析がしにくいところがある。 今だいぶ回復もしつつあるので、そういった状況も見ながら、改めて目標数値の検討をしていきたいと思う。
岡田教育長	以上で項目の評価について見直していただいた。 それから 113 ページ以降に、具体的な数値目標を上げているものについては、その推移がどうだったのかということに記載しているので、また確認いただけたらと思う。 以上の個別項目を踏まえて、3 ページから 7 ページまでの総評を見ていただきたい。 事務局から何かあるか。
日ノ原係長	3 ページの記載は特に変更していないので、4 ページから 7 ページまで、柱が 5 本ある。その 5 本について、最初のところはあまり変更ないが、途中の段落、4 段落以降から少し変更している。

岡田教育長
杉野本委員

まず柱Ⅰ学校教育の充実について、何かご意見があるか。
一行目の真ん中、「将来を担う子どもの学力や豊かな心」とあるが、「確かな学力」と「確かな」が入った方が良いと思う。
それから、4 ページの一番下のところ、「人権感覚を育てる研修を行うなど、「いじめ問題」の根絶に取り組む必要がある」とあるが、読みようによっては、今まであまり取り組んでいないようなニュアンスで、今後も取り組むとか、一層取り組むとか、今までも力を入れてずっと取り組んでいることだと思う。ちょっと言葉を加えるといいかなと思う。

岡田教育長

ありがとうございました。

続いて、5 ページのⅡ家庭教育支援の推進について、何かご意見があるか。

各委員

特になし。

岡田教育長
杉野本委員

続いて、Ⅲ社会教育の推進について、何かご意見があるか。

6 ページのⅣ生涯スポーツの振興の上、下から3行目のところに「市民の読書活動普及に取り組むとともに」とあるが、それまでのところは「取り組む」はひらがなも入っていたが、ここは抜けているので入れた方がいい。

その上の「蔵書の充実に取り組む」も「り」を入れた方がいいかなと思う。

だいたい皆「り」を入れて標記していると思う。

岡田教育長

統一をお願いします。

岡山委員
岡田教育長

続いて、Ⅳ生涯スポーツの振興について、何かご意見があるか。

スポーツ少年団についてここで出てきている。

先ほどのことについて、ここに書けないこともない。

また事務局内で検討する。

最後にⅤ歴史・文化の伝承と創造について、何かご意見があるか。

宇津委員

6行目の「コロナ前に比べると以前減少しているが」とあるが、「依然として」という意味だと思うが、漢字が違う。

田中課長
杉野本委員
日ノ原係長
岡田教育長

誤りなので、訂正する。

「依然」がいるかどうかも見直した方がいいと思っていた。

削除させていただく。

今日はボリュームのあるものを見ていただいたので、いただいた指摘事項を踏まえて、この案の見直しをする。

改めて総評のところでご気付いたところがあれば、ご意見をお寄

	せいただければと思う。
	これはいつまでにするか。
日ノ原係長	もう一度事務局も含めて内容を見直し、10月の定例会にもう一度出す。もしくは、ボリュームの内容によって、あまり多くなければ配付して確認していただくのみで。
岡田教育長	配付して確認してもらおうと時間がかかる。
日ノ原係長	それでは、こちらで直したものを個別に送らせていただき、またご意見があれば出していただくというかたちにする。
岡田教育長	とりあえず今見たが、思い出せずにあとから指摘ということがあれば、いつまでに伝えたらいいか。
日ノ原係長	今週中のところでいただければ。
岡田教育長	皆さん今日見ていただいたが、さらにこういうことも気が付いたということがあれば、今週いっぱいのところでも事務局の方へご連絡いただきたい。よろしく願います。
	以上で自己点検評価について終了する。

3 部長・課長等報告事項

森脇部長	<p>令和4年度 一般会計補正予算（第6号）説明資料（資料3）</p> <p>教育長から議会の条例、それから人事案件等の報告があったが、私から補正予算と個人一般質問について、報告をさせていただきます。</p> <p>まず、資料3をご覧ください、令和4年度一般会計補正予算（第6号）説明資料である。</p> <p>今議会で補正予算の提案があった。</p> <p>1番の編成概要であるが、今回の補正予算は、原油価格・物価高騰対策として追加で取り組む事業費について調整を行うとともに、6月補正予算編成以降に生じた経費について、追加等を行うものである。</p> <p>2番の予算規模であるが、補正前の額が40,213,896千円のところ、補正額1,251,403千円を増額している。</p> <p>3番の主な補正事項では、(1)原油価格・物価高騰対策として追加で取り組む事業費の調整、(2)給油所給油設備の改修に対する支援、(3)個人番号カードの普及促進のための経費の調整、(4)普通交付税及び臨時財政対策債の調整である。</p> <p>裏面をご覧ください、4番の一般会計補正予算の16番、県支出金であるが、右側の説明部分を見ていただくと、学校支援員</p>
------	---

配置事業の県支出金の減が 7,047 千円ということが記載されている。

3 ページの 10 番、教育費のところをご覧ください、学校支援員配置事業が県補助事業の一部不採択に伴う財源振替ということである。以上が追加の補正予算の説明である。

個人一般質問 通告一覧（令和 4 年 9 月浜田市議会定例会議）
（資料 4-1）

続きまして資料 4-1 をご覧ください、個人一般質問通告一覧である。

左側にある番号が、議員の発言順位である。2 番の上野議員から、大項目 2、安全・安心なまちづくりについてということで、(1) 教育現場における諸問題についての質問があった。

次に 6 番の三浦議員から大項目 1、新しい地域づくりにおける社会教育の振興についてということで、(1) 社会教育に関する浜田市の基本的な考え方・状況について、(3) 社会教育士の人材活用についての質問があった。

次のページをご覧ください、9 番の大谷議員から大項目 1、学校教育の充実についてということで、(1) 「理数教育の充実」を目指すこととした背景について、(2) 理科振興法に基づく国の予算獲得への準備状況について、(3) 「理数教育の充実」を評価する観点についての質問があった。

次に 12 番の牛尾議員から大項目 1、公立幼稚園の将来展望についてということで、(1) 統合幼稚園について、(2) 新たな場所での新園建設についての質問があった。

次のページをご覧ください、15 番の岡本議員から大項目 3、地域の伝統文化の保存と活用 (SDGs4) についてということで、(1) 伝統文化を生かす地域社会と文化協会についての質問があった。

次に 16 番の小川議員から大項目 2、教職員の働き方改革と魅力化についてということで、(1) 教職員を取り巻く問題点について、(2) 教職員の労働環境改善の取組についての質問があった。

次に 18 番の川神裕司議員から大項目 2、観光戦略の中核となり得る石見神楽の振興についてということで、(3) 石見神楽に関わる「ものづくり」に対する文化財指定の取組についての質問があった。以上 8 名の議員方から大項目 8、中項目 13 の質問

があった。

令和4年9月定例会議（答弁準備原稿 個人一般質問用）（資料4-2）

資料4-2として、答弁準備原稿個人一般質問用を付けている。その中で、先ほどの大項目、中項目に対して、小項目ごとの答弁内容が記載してあるため、また、ご覧いただければと思う。

岡田教育長

資料3の補正予算について、分かりにくかったと思うが、今、浜田市では特に学校支援員として多くの方に入っている。その経費について、県の補助金を活用しているため、ここが満額つかないと、市が単費分用意しても人が入れられない。予算の段階では分かっていたが、年度末ぎりぎりになって、どうも県が予算をつけられそうにないということが分かり、このままでは予定どおりの配置ができない状況になったが、財政課と市長に英断していただき、コロナウイルス感染症対策交付金を充当することによって当初の数を確保するというので、今回、補正予算に挙げさせていただいている。

したがって、予定どおりの配置が実現できるため、教育委員会としては本当にありがたい補正予算を認めていただく予定である。

それから議員方からの質問の内容と通告の回答を資料として付けており、そのあとの再質問のやり取りがあるが、こうしたことが関心を持たれているということをご理解していただければと思う。

委員方からご質問等あればお願いする。

杉野本委員

学校支援員配置事業であるが、県は何年間、市町村に支援してくれたのか。

岡田教育長

今も継続して支援をさせていただいているが、圧縮になった。補助金の金額が下がってしまった。

杉野本委員

増やしたというのはコロナの関係で県が増やしたのか。

岡田教育長

コロナの関係というより、支援員の配置の必要性を考えて、今まで予算措置がしてある。

何か補足があるか。

山口課長

コロナが始まって、学習支援ということで国も予算をつけた。ただ、県も用意するという中で、県も全体を見て、要は支援員の配置の基準が令和2年7月以降に新規に雇い入れた人を

対象にしてきたもので、それ以前から雇っていた方も昨年まで対象にしてきたが、その部分が対象外となった。その部分が約700万円ということで、その部分を今回、財源を組み替えていただいて、予算執行ということになっている。

今後、コロナがなくなった時に、この予算はどうなるのかというのは、非常に懸念材料ではあるが、今年度は当初のとおり、予算を確保できる。

その他はよろしいか。

これからますます支援員の役割は大きくなっていくのではないかと思う。県が予算を削るとするのは困る。

要望は続けている。部活動の地域移行についても国が示されたが、国も予算化をして、その事業費の負担が国、県、市で3分の1ずつということである。そのため、地域移行に伴って県も市もそれぞれ負担が大きくなり、どこかにしわ寄せがくる。要望としては、支援員については何とかつけていただきたい。

岡田教育長
宇津委員

岡田教育長

草刈課長

行事等予定表（資料5）

教育委員会関係の行事等予定表である。期間は右上にあるように、9月26日から10月31日までである。

冒頭、教育長報告の中でも話があったが、浜田市中学校新人総合体育大会等が開催される。

右から2列目に丸印を付けているのが、10月13日の幼稚園の学校訪問、10月27日の次回の教育委員会定例会である。丸印を付けている部分については、委員方に出席をお願いしているものである。以上である。

岡田教育長
各委員

行事等予定表について、ご質問等あれば願います。

特になし。

山口課長

探究活動 HAMADA Wi-Wi 活動報告レポート（資料6）

今年度の HAMADA 魅力化コンソーシアムでの活動について、学校の教育課程外の部分で、高校生が地域活動できるということを今年度に計画をして、7月と8月にフィールドワークとワークショップを開催している。全体で15名の高校生の参加があったが、最終的にワークショップでは、今年度、探求的な活動に結びつけようというのは、裏面にあるように4名ほどが残り、参加をしている。

最終的に、こういった探求テーマを持ったのかということ、下段にある様に食品ロスをなくしたい等が挙げた。

伴走型支援ということで、岡山委員にもメンバーに入っただき、それぞれ1名、伴走者を入れて少しでも探求ができるようにと取り組んでいる。今後随時、課題解決の内容を詰めていくが、どこかの段階で発表会なり、きちっと行いたいと考えている。一応、中間報告というかたちで報告をさせていただく。

地域吹奏楽倶楽部創設プロジェクト（追加資料）

追加資料で本日お配りしている藤重先生のお顔が前面に出ているチラシをご覧ください、これは先ほど話があった部活動の地域移行の中で、特に文化部について、文化庁が、すぐには移行しなくても、将来的に地域移行の受け皿になるモデル事業を今年度から用意された。

今回、このモデル事業を石見音楽文化振興会が受託をされて、浜田市内の中学生を対象に実施するという企画である。

裏面の赤字部分をご覧ください、10月中旬から月2回、土・日のどちらかで、部活にプラスアルファで、自分で学びたいという方を対象に事業を実施される。

すぐに部活動の受け皿になるものではないが、実証実験としてされるものである。実施前に委員方に情報提供をさせていただいた。以上である。

以上2点の報告があったが、ご質問等あれば願います。
特になし。

岡田教育長
各委員

永田担当課長

令和4年浜田市成人式（延期分）の開催について（資料7）

資料7をご覧ください、令和4年の浜田市成人式であるが、令和4年1月9日に開催予定であったものの延期分である。

開催日時は10月9日（日）13時30分から、会場は石中央文化ホールである。対象者は、平成13年4月2日から14年4月1日生まれの方で、平成29年3月の浜田市内の中学校卒業生484名が対象となる。

主な内容を記載しているが、コロナウイルス感染対策の関係上、30分間の短時間での開催となる。

裏面をご覧ください、前回と同様に事前申し込みとさせていただき、9月22日を締め切りになっている。今日現在で239名の

申し込みがあり、約 50%弱の方から申し込みがあった。

令和 3 年度が 55.2%で 1 年間延期をして開催しており、こちらと同じようなかたちで、時期的にはなかなか帰省しにくい時期ではあるが、約 50%弱の方が参加の申し込みをいただいている。

今回、延期をしたことについての支援策であるが、貸衣装のキャンセル料に対する支援、それから今回帰省していただく方に限り、交通費として片道につき上限 2 万円、往復 4 万円の助成を行う支援を考えている。今現在で、数件の申し込みがあり、交通費等の問い合わせがきている状況である。

それから、10 月に開催ということで、なかなか帰省しにくい時期での開催であり、少し問い合わせ等もいただいている関係で、来年 1 月 3 日に開催予定の「令和 5 年二十歳の集い」に、今回の令和 4 年浜田市成人式に参加できなかった方については参加可能として開催するため、お知らせさせていただく。

長期休業中におけるはまだっ子共育推進事業について(資料 8)

昨年度も報告をさせていただいているが、長期休業中の夏休み期間中に実施をしている「はまだっ子共育推進事業」について、それぞれの各センターにおいて行った事業を報告させていただく。

それぞれ浜田地域、金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域で実施をしている事業の中で、それぞれ 1 つずつ、主立ったものについて記載をしているため、ご覧いただければと思う。

また、参加者全てを集約しているわけではないが、浜田市全体では 64 の事業を実施している。このうち数件、コロナの関係で中止した事業もあるが、計画の段階で 64 の事業を実施している状況である。資料 7、8 については以上である。

資料 7、8 について、ご質問等あればお願いします。

特になし。

岡田教育長
各委員

鳥居室長

第 5 回(9 月)市校長会資料(資料 9)

資料 9 をご覧いただき、1 番については、前回の教育委員会定例会で紹介をさせていただいているため、省略させていただくが、資料の 1 ページから 26 ページまで非常にたくさんの資料を付けている。21 ページ目の資料 C のところで学力調査結果

を受けて臨時校長会を開催し、そこで3つのグループに分かれて協議をしていただき、それぞれのグループから出てきた協議内容を発表していただいたものを簡単に載せている。3つのグループで共通して出てきたものが、授業づくり、学習集団づくりの重要性が挙げられている。詳細についてはご覧いただければと思う。

9月の校長会では、小学校長会から午後から研修というかたちで、学級づくりと授業づくりということで、徹底した研修を行っていただいている。

資料9の1ページ目、2番の「IPU 環太平洋大学 前田一誠教授の指導から」をご覧いただきたい。指定校である周布小学校と長浜小学校での研修会のため、前田教授に夏休み中に来ていただいている。

両校で語られ、指導をいただいたことについて、2ページのところまで載せており、校長先生方にも紹介をさせていただいている。併せて学力向上推進室だよりということで、全ての先生方の目に触れるように、発行して各学校へ送付をしている。

3ページの3番、協調学習研修会よりということで、9月、10月、11月には研究授業が各学校で活発に実施されることになるが、そこに併せて資料D、Eを付けて、校長先生方から各学校の先生方に紹介をしていただくために、お示ししたものである。

4ページをご覧いただき、確認としてあえてお願いしたのが、上段の四角囲いで囲っている部分であるが、指導案の審議、それから研究協議でも大切にしてほしいということで3点ほど載せている。1点目が子どもの問いを生み出す仕掛けをどのように行うのか。2点目が対話により考えを深めたり広げたりするための仕掛けをどのように行うのか。3点目が話し合い活動における教師のコーディネートをどのようにするのか、具体的な子どもの反応を予想しながら考えたり、話し合いをしたりしてくださいとお願いしている。

4番については、今後の指定校の公開授業の予定である。全ての教員が、指定校の公開授業に1回は参加することを願っている。非常に簡単な説明で申し訳ないが、以上である。

ただいまの説明について、ご質問等あれば願います。
特になし。

岡田教育長
各委員

田中課長

第 16 回浜田市総合スポーツ大会について（資料 10）

資料 10 をご覧いただき、第 16 回浜田市総合スポーツ大会についてである。

10 月 2 日（日）、県立体育館にて第 16 回浜田市総合スポーツ大会総合開会式を 3 年ぶりに開催する。総合スポーツ大会は毎年開催をしているが、コロナの流行により、開会式については開催していなかった。今年度は感染状況も収まってきたことから、規模を縮小し、何とか開会式を開催したいということで、10 月 2 日に予定をしている。

総合スポーツ大会の各競技の開催日程はご覧のとおりであるが、1 点修正がある。10 月 10 日、上から 2 番目にバスケットボールがあるが、この資料を作成、提出後、浜田市のバスケットボール連盟から中止の決定をしたと連絡があった。コロナの感染状況を鑑みてということで伺っている。バスケットボールについては、今年度は中止ということである。

詳しい内容については、資料をご覧いただければと思う。資料 10 については以上である。

浜田郷土資料館見学会の開催状況について（資料 11）

続いて資料 11 をご覧いただき、浜田郷土資料館の見学会の開催状況についての報告である。これは普段、見ることでできない収蔵庫等も含め、まず、郷土資料館の現状を皆さんに見てもらおうということで、各まちづくりセンターの協力を得て、今回の見学会を開催したところである。

7、8 月のところで 19 回開催し、合計で 141 名の方に参加していただいている。

裏面をご覧いただき、この時に実施したアンケートの結果をまとめている。

アンケートを実施した結果、半数近くの方が初めて来たと回答されていたが、そうした方にも知ってもらう機会としては、十分だったのかなと思う。

それから展示室、収蔵庫ともに狭いという回答が多く、結果、整備の必要性についても、整備が必要という意見が多くを占めたところである。実際に資料館を見た上での率直な意見をいただけたと思っている。アンケートに記入していただいた際に、

岡田教育長
各委員

いろいろなご意見をいただいているが、資料の4ページ目以降のところにて全て掲載をさせていただいているため、また後ほどご確認いただければと思う。

開催状況については、先日、議会の総務文教委員会で報告をしており、次は全員協議会で報告したのちに、各地域協議会にこの状況について報告していく予定である。

その後の今後の進め方については、それ以降のところを検討するということ考えている。説明については以上である。

ただいまの2点に対して、ご質問等があれば願います。
特になし。

4 その他

(1) その他

岡田教育長
日ノ原係長
岡田教育長

事務局からその他何かあるか。

特になし。

その他のところで、委員方からご報告やご質問があれば願います。

各委員

特になし。

次回定例会日程

定例会 10月27日(木) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

次々回定例会日程

定例会 11月22日(火) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

16:00 終了